

# 「また会いに来たよ」と 言ってもらえるような 観光果樹園を目指しています



(有)まるせい果樹園  
代表取締役  
佐藤 清一 さん  
曾祖父が始めた果樹園を平成13年に法人化する。約800アールの広大な敷地にサクランボ、モモ、ナシ、ブドウ、リンゴなど栽培している

まるせい果樹園は、福島市の北部、国道13号沿いのピーチラインにあります。代表取締役の佐藤清一さんは、18人のスタッフと共に生産・販売・直売、各種くだもの狩りのほか、農家カフェやライダーズピット（無料休憩所）を運営しています。果樹生産に加えて、「観光果樹園」で感じるお客様との触れ合いや絆のお話を伺いました。

## 「GAP」認証取得で お客様との 信頼関係を再構築

家業を継いで23年。清一さんは、観光果樹園をお客様との絆を深める「食」のテーマパークにしようと思われ、日々奮闘しています。しかし、その道のりは決して順風満帆ではありませんでした。

## 福島のももが大好き

毎年夏になると、親戚から届く福島のもも!!箱を開けるとかわいらしいももがほほ笑み、甘い香りが部屋中に広がります。おいしさがぎゅっと詰まったももに家族みんなの笑顔があふれます。私にとって、福島のももは夏の楽しみです!今年も楽しみに待っています!



横浜市  
おつる さちこ  
大津留 幸子 さん



1/旬のフルーツで盛りだくさんのパフェ目当てに行列ができる農家カフェ「森のガーデン」の店内。6～12月の期間限定で営業し、期間中は無休。月～金曜日：午前10時～午後4時、土・日曜日、祝日：午前10時～午後5時（各15分前ラストオーダー）  
2/完熟ももを1個半使用。発売以来、大好評の名物「まるせい桃パフェ」（レギュラー600円）。パフェは、収穫時期に応じてブドウ、ナシ、リンゴと続く。10月には、フルーツを全部のせるスペシャルパフェも登場する



ももは、7月の早生種から8月の『あかつき』『まどか』、9月の晩成種『ゆうぞら』『黄ららのきわみ』まで20種類以上を栽培しています。くだもの狩りは要問い合わせ



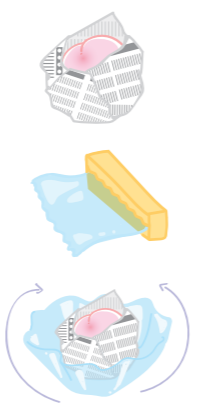
福島市内の観光果樹園はこちら  
福島県くだもの消費拡大委員会  
<http://www.f-kudamono.com/>

福島の果物の購入はこちら  
ふくしまWeb特産品『ふくとく』  
<https://www.f-tokusan.com/>



## 豆知識 ももの保存法

福島の新鮮なももは、歯ごたえがあり甘いのが特徴です。食べ切れないときは、新聞紙など湿度を調整してくれるものに包み、その上からラップをして冷蔵庫へ。柔らかいももを食べたいときは常温で日光が当たらないところに2～3日ほど置き、香りが立つくらい追熟させましょう。追熟後、保存する時も新聞紙に包みラップをして冷蔵庫へ。冷やし過ぎると香りも甘みも感じなくなってしまうので注意を!



## お客様を喜ばせたい! 笑顔で『会いに来て』ほしい

ターニングポイントとなったのが、東日本大震災。風評の影響で、サクランボやももの時期になっても果樹園にお客様の姿が全然見えなかったのです。売り上げが例年の約一割程度まで落ち込んだ時期もありました。そこで、平成24年から農産物の安全性を評価する認証制度「GAP」の取得に取り組み始めました。「外部機関から正式に安全だと認証されることで、お客様との新たな信頼関係を築きたいと思ったのです」と清一さん。日本版「JGAP」に挑戦し、平成25年6月に取得すると首都圏の大手小売店などの取り引きが始まり、徐々に売り上げが回復しました。平成28年には国際版「GAP」も取得。福島全体の信頼を底上げしたいと妻・ゆきえさんと息子さんを含めたスタッフのうち4人がJGAPの指導員の資格も取得。ゆきえさんは県内の果樹園や農業短大、高校でも指導を行っています。

果物のおいしさをもっと知ってもらうため、平成27年には農家カフェもオープンさせました。旬の果物をふんだんに使ったパフェなどを提供するカフェは、県内外から多くのお客様が訪れています。そのほかにも、果樹園内にハートの形の池を作り鯉（恋）や合鴨（愛）を放したり、土壌改良も兼ねて毎年約1万本のヒマワリを育てたり、楽しんでもらうための工夫がたくさん。お客様とは常に笑顔でコミュニケーションをとるように心掛けています。「人とのつながりを大切にしたいですね。甘いももを食べて笑顔、おもてなしでも笑顔。『食べに来たよ』『会いに来たよ』に、もう一つ『会いに来たよ』と言ってもらえるような観光果樹園にしたいと思っています。」  
お客様はもちろん働くスタッフにも安全と安心をもたらす、環境保全も目指すGAPの維持・更新を続けながらさらに良く、さらに楽しくする方法をみんなで考え続けていきたいと話す清一さん。笑う門には福来る。この夏、観光果樹園でたくさん笑ってリフレッシュしてみたいかがでしょう。